



障がい者の社会参加を広げる

おおぞら通信

119号 2017年8月24日 発行

「おおぞら」は、グループホームの運営・就労支援を軸に、主に知的障がい・発達障がいのある方々の地域生活を支援する活動を行っています。

“障がいのある方が、地域の人々とともにふつうに暮らすこと”、それが私たちの願いです。

地域で生きる 地域が活きる

「昔はね、障がい者の人たちは、生まれ育った地域を離れて、遠くの施設で暮らしてたんだって」

いつか、障がいのある人たちが地域で暮らすことが当たり前になる時代が訪れて、こんな会話が交わされる日が来るのかもしれない。

地域で暮らすということは、いい事ばかりではない。実際に差別や偏見もある。管理されない生活の中で、失敗してつらい思いをしたり、傷ついたりすることもきっとある。でもそれは、障がいのあるなしに関わらず、人が社会の中で成長する過程で、当たり前を経験することだ。

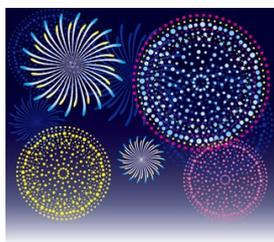
世渡り下手な彼らは、時には地域の方々を心配させてしまったり、迷惑を掛けてしまうこともあるかもしれない。それでも、関わりの中でしか、本当の理解は生まれない。

障がいがある人たちが精一杯生きている姿を、その目で見て欲しい。障がいのない人たちが一生懸命に生活をしている姿を、彼らに見せて欲しい。関わりの中で、お互いの生き方を知ったとき、人は人を受け入れることができるのだろう。

「障がいを理解しよう」とか、そんなに気負う必要はない。目の前にいるその人を理解していく、ただそれだけでいいのではないかと、私たちは思う。

だからこれからも、“地域で生きる”ことに、こだわり続けていく。

写真：小坂団地行政区の夏祭りに呼んでいただきました。地域の方たちの踊りの輪に加わり、銘々勝手な振り付けと一緒に踊りました。小坂団地の皆さま、ありがとうございました。また来年もぜひ参加させてください！



報告 「平成 29 年度通常総会」を開催しました

6月17日に通常総会を開催いたしました。24名の正会員が出席、8名が書面表決、4名が表決委任状を提出し、以下の議案が承認されました。

- 第1号議案 役員の選任並びに承認 →承認
- 第2号議案 平成28年度事業報告 →承認
- 第3号議案 平成28年度活動決算 →承認
- 第4号議案 平成29年度事業計画案 →承認
- 第5号議案 平成29年度予算書案 →承認
- 第6号議案 定款変更案 →承認



平成29年度
通常総会の様子

新役員（任期2年）が承認されました

- 理事 小澤 純也 （再任・理事長）
- 名児 耶清吉 （再任）
- 尾形 正昭 （再任）
- 林 敦子 （再任）
- 山本 光明 （再任）
- 御代川 忍 （再任）
- 秦 なつみ （新任・常務理事）
- 監事 今田 敬 （新任）

以下の役員が退任されました。長年に渡り活動にご協力いただき、ありがとうございました。

- 理事 秦靖枝 （退任）
- 監事 古谷博 （辞任）
- 監事 柳井三郎 （任期満了）

～ 総会概要 ～

- ◇役員 :新たに、理事に秦なつみ(常勤職員)、監事に今田敬氏(博慈園施設長)が選任されました。
- ◇事業報告: H28年度、すばる(グループホーム事業)では1名が退所しましたが、全体として穏やかな生活を送ることができました。きりの木(就労支援事業)では、内職請負をやめ、工賃向上のための作業見直しを行いました。あさぎ(斎場内売店・喫茶)には、きりの木利用者・職員が毎日シフトに入るようになり、連携が進みました。
- ◇活動決算: H28年度はグループホーム事業、あさぎ事業とも収支が安定。就労事業は収支マイナスになりましたが、県のコンサルタント派遣事業を受け、竹粉を使った新商品の開発準備が進みました。次期に期待です。
- ◇事業計画:すばる(GH)では、住民への理解を進めること、将来的に重度障害者の方が暮らせるホームの開設準備を進め、また一人暮らしを希望する入居者への支援を進めていきます。きりの木(就労)では、利用者の収入を増やすため、商品の販売促進を行い、またワークショップの開催による地域交流を企画しています。あさぎ(売店・喫茶)では、働く利用者の方のスキルアップを目指し、同時に売店・喫茶を利用する会葬者の方々が増え、利用できるサービスの提供に努めていきます。こもれび(相談支援)は、29年度は休止します。
- ◇予算案 : 29年度を「基盤整備の年」と位置づけ、事業の長期的安定を図るため、職員の待遇改善のための費用を見込んでいます。また近年の葬儀の小規模化を受け、あさぎの収入を5%減で計上。きりの木は新商品の販売を開始し、事業収益の増益を見込みました。
- ◇定款変更: NPO法の改正を受け、定款において、貸借対照表の公告の方法が、官報から「内閣府NPO法人ポータルサイト」に変更されました。

毎年恒例! おおぞら食事会

利用者もスタッフもみんな“おおぞらの仲間”です!



総会が終わってホッと一息。毎年恒例となったおおぞら全体食事会を開催。

今年も40名以上の個性あふれるメンバーが集まり、大いに盛り上がりました。来年には、どんな仲間が加わるのかなあ〜と、今から楽しみです。

津久井やまゆり園事件から 1 年

あの痛ましい事件から1年が過ぎました。被害を受けた方々と、その関係者の方々が受けた傷は月日が経っても簡単には癒えるものではないでしょう。一日も早く心穏やかな日々が戻りますことを願ってやみません。

事件が報道された時、悔しさと同時に言いたい不安感に襲われました。そして、加害者が「元支援者」であったこと、そこに底知れぬ虚しさを覚えました。事件の背景には「一人の人間の身勝手な犯罪」とは片づけられない、複雑な問題があるように感じています。答えは出せないかもしれませんが、それでも私たちは事件に向き合い続けなければならない、そう思っています。

今後の『おおぞら通信』では、様々な方に寄稿していただき、事件を考えるきっかけにしたいと考えております。今回は、事件の後、当時の理事長 秦靖枝が出した声明文から、一部抜粋し掲載いたします。

津久井やまゆり園事件を受けて

NPO法人おおぞら 理事長 秦靖枝

「NPO法人おおぞら」は1999年から障がい者の「意思決定支援」と「本人の権利擁護」を活動の軸として掲げ、「障害のある人たちが、住み慣れた地域で普通に暮らすこと」を目指して活動を続けてきました。

3～4人が家族のように暮らすグループホームと、ひとり暮らしへ向けたサテライト型住居、就労へ向けての訓練を行う就労支援事業所、本人の気持ちに寄り沿い一緒に問題解決を考える相談支援事業所を運営しながら、一人ひとりの可能性を最大限に引き出し、障害のある方々に生き生きと暮らしてもらいたいと考えています。

グループホームの開設に際しては、地域住民からの反対運動もありました。説明会や交流を重ね、直接かかわりを持っていただくことで、誤解や偏見は解けていきました。障害のある人もない人も、共にその人らしく、幸せに暮らせる地域社会で

あってこそ、すべての人が「日本国憲法」に明記された「基本的人権」を享受できる社会だと思います。「障がい者だから人権が守られなくてもよい」と考える社会になれば、必ず一般市民の人権も踏みにじられることになるでしょう。

おおぞらとともに活動を進めてきた、障害のあるAさん、Bさん、Cさん……。その一人一人は私たちにとってかけがえない大切な仲間です。障がいの有無にかかわらず、多くの命が奪われるという、このような悲劇が二度と繰り返されないことを願ってやみません。

私たちは、障害のある方々の暮らし難さを埋める支援を続け、誰もが安心して暮らせる地域社会をつくる活動を進めてまいります。今後ともご本人、ご家族や支援者の皆さま、地域住民の皆さまのご理解とご協力をよろしくお願い致します。

2016年7月29日



キッズ向けワークショップを開催!

夏休み中の8月9日。きりの木に、「児童発達支援&放課後等デイサービス・ありすくーる」の元気な子どもたちが、やってきました。

この日は、きりの木の作業場のひとつである、旧ハモナカフェで開催した、初めてワークショップ。お題は「竹の貯金箱をつくろう!」。きりの木の利用者さんと一緒に、普段使うことがない、のぎりやトンカチを使って竹を加工し、思い思いに飾り付けをしました。

普段はとってもやんちゃな子どもたちも、この日は真剣に作業に取り組み、「楽しかった～、またやりたい!」と嬉しい感想ももらいました

きりの木は今後も地域の皆さんとの交流を積極的に行っていきたいと思えます。



今日も頑張ってます☆

オリブ・きりの木を利用する

すぎもと いさむ

杉本 勇さん



取手市出身の42才。お母さんが世界後には、お父さんが施設に入所。ひとり暮らしになったため、3年前におおぞらのグループホームに入居しました。

平日は、グループホームから「きりの木」の仕事に自転車を通い、週末はあちらこちらのイベントにひとりで参加して楽しむ毎日です。

趣味は「フリーマーケットでの買い物」と「無料の映画を鑑賞すること」。得意なことは、「計算(?)」と「自転車の長距離運転」です。ときには2時間もかけて、柏までも自転車で遠征してしまう脚力の持ち主です。ときどき迷子になりますが……。

今頑張っているのは、「あさぎの仕事」。将来の夢は、「就職して自立すること」。結婚して家庭を持つ夢は?と尋ねると、「結婚はしたいけど、まあ、相手がいればだけどねえ……」。

杉本さん、夢の実現を目指して、今日も頑張ってください!

復活!

名児耶清吉の

じじ(爺)ほうたん

じじ(爺)ほうたん 川川呆談

我が名児耶名譽理事長の「JIJI 呆談」が久々の登場! なんだか落ち着かない最近の政治情勢に、苦めの一言!

アメリカを筆頭として、ロシア、中国、イギリスなど、世界主要の各国が、自分さえよければほかの国なんぞ、どうなってもいいやと「ガリガリ亡者」ばかりになってしまいました。

日本だって、ヒトのことは言えません。唯一の原爆被爆国と称しながら、「国連核兵器禁止条約」に批准を拒んだばかりありませんか。言行不一致のサンプルか、核の傘の下での付度か、いずれにしても国民にとって大きな迷惑です。

「論語」(孔子の言葉集)に「瓜田に履を納れず李下に冠を正さず(かでんにくつをいれず りにかにかんむりをたださず)」があります。特に安倍首相や国税庁長官などには、拳拳服膺^{*}して肝に銘じてもらいたい言葉ですが、このモジりに

「おでんに靴を脱がず、じかに帽子を被らず」というのがあります。おでんを屋台で食べるときは、食い逃げができるように靴を脱がない、禿げるといけないから帽子は被らない、という意味です。

久しぶりで、JIJI 呆談を載せてくれるというのですが、持病の健忘症(認知症?)のため、しばらく遠ざかっていたらすっかり忘れてしまいどんなスタイルだったか全然覚えていません。しかし、過去にとらわれないのが私の主義です。新しいスタイルでやっていきます。どうぞそんなに続きません。暫くの間ご辛抱ください。

^{*} 拳拳服膺(けんけんふくよう): 常に心に抱き決してわすれない

おおぞら掲示板

就労支援事業所 きりの木

(指定就労継続支援B型事業所)

利用者さん募集中!

きりの木では、少人数のよさを存分に生かし、売店・喫茶、無農薬の野菜作り、野外作業等々、いろいろなお仕事にチャレンジして、潜在的な力を引き出すお手伝いをしています。毎日頑張ってお仕事をする人は、平均工賃が約2万円まで向上!

その他「ソーシャルスキルトレーニング」や、身体の使い方を知る「ブレインジム」を実施し、社会性や身体機能の向上に取り組んでいます。

※見学・体験利用をご希望の方は、[029-875-8841](tel:029-875-8841)までご連絡下さい

グループホーム入居者募集!

以下のホームで入居者を募集しています。ご関心ある方は事務局 [029-873-8883](tel:029-873-8883) までご連絡下さい

オリーブ (男性1名募集)

定員3名 (男性専用)。
夜間スタッフが常駐しています

※消防法の規定により区分3までの方が対象

こすも (男性1名募集)

定員5名 (男性専用)

朝と夕方に支援員が勤務。夜間の緊急時対応あり

ぎんが (1名募集・男女共用)

定員5名 1Kのアパートタイプです

シャワー・トイレ・ミニキッチン各居室にあり夕方に支援員が勤務。夜間の緊急時対応あり

フェイスブック始めました

「特定非営利活動法人おおぞら facebook」で検索!

29年度会員募集!

当会の活動にご賛同いただける方のご入会をお待ちしております

期間: H29年4月~H30年3月

◎正会員: 3,000円

◎賛助会員: 3,000円

◎正団体会員: 10,000円

◎賛助団体会員: 10,000円

(振込み用紙をご利用ください)

◎活動へのご寄附へもご協力をお願いいたします

ご寄付をありがとうございました。

赤波根さよ子様 雨宮和子様 荒川純太郎様

井口文子様 遠藤鏡子様 尾形政昭様

兼久歯科医院(兼久大輔様) 鈴木聡子様

林敦子様 徳岡誠一郎様 宮本靖典様

森本二太郎・佳代様 柳生紀彦様

山下美由紀様 吉岡靖子様 渡辺惇様

そのほかの皆さま

使用済みろうそくを集めています

葬儀社さまより、着火材の原料となるろうそくを、たくさんご寄贈いただきました。ありがとうございます。ご家庭にご不要なろうそくがありましたら、ご寄贈をお願いいたします。

特定非営利活動法人おおぞら理事長 小澤 純也 編集 おおぞら事務局

住所: 〒300-1287 茨城県牛久市田宮3丁目1-18 電話: 029-873-8883 ファクシミリ: 029-886-5161

ホームページ: <http://ohzora.ec-net.jp> E-mail: npohojin-ohzora@ohzora.ec-net.jp



追悼 秦先生本当にお疲れさまでした



大好きな秦先生へ
私たちを大切に想ってくれて
本当にありがとうございました

いつも明るく、元気いっぱいだった秦先生。

私たちが悩んでいる時は、そばにいて、優しく励ましてくれました。そして私たちの知らない、いろんな話を聞かせてくれて、たくさんのことを教えてくれました。

先生と会えなくなってしまったことは、とてもとても淋しいことです。でも、これからも私たちは、先生の想いとともに歩み、しっかりと前を向き、力を合わせて進んでいきます。

まだまだ危なっかしい私たちではありますが、天国から楽しく、私たちの不器用な歩みを見守っててください。

私たちは、ずっとずっと、先生を覚えています。

4月24日の早朝に、おおぞら前理事長 秦靖枝が亡くなり、瞬く間に4ヶ月が過ぎようとしています。誰よりも元気だったあの姿を思い浮かべると、ふいに旅行にでも出てしまったのではないかと思ってしまうほど、未だに実感がわきません。

たくさんの方が復帰を心待ちにして下さり、また励ましていただいたことが、闘病の大きな支えとなりました。心より感謝申し上げます。

10月7日（土）に、秦靖枝前理事長の追悼会が開催されます。長年一緒にまちづくりに取り組んできた、地域の方々が主催しています

どなたでもご参加いただけますが、会場の都合上、事前にお申込みをお願いいたします。

「秦 靖枝さんを偲ぶつどい」

日時：10月7日（土）午後1時受付開始（1:30～3:30）

ところ：牛久中央生涯学習センター 多目的ホール

秦靖枝の言葉 ～私たちに託された想い～



天になんか行かないからね。そばにいて、間違っただけにいったら、

「こっちよ」って、手招きするから

残された時間がわずかだと知った母は、か細くなった声を絞り出し、でも、いつもの朗らかな笑顔を私に向けて言いました。

昨年の秋、末期の肺ガンと診断されたときには、呆れるほどにガンは全身に転移していました。「でもきっとまた元気な母に戻る」。そう信じて、姉妹みんなで、ただただ必死になって治療に通い、介護にあたりました。

抗がん剤の効果で一時期は回復し、「復帰できるね」と喜んでいましたが、3月の終わり頃になると、目に見えて弱っていききました。うつらうつらと眠る時間が増え、自力で起き上がれなくなり、ついには水を飲み込むことさえできなくなり、なす術もないまま、ただ残された時間を家族で過ごしました。

「本当の在宅死、やってみたかったの」

起き上がれなくなった体で呟いた母。その望みを叶え、すべての力を使い切り、とても静かに旅立ちました。

もちろん母には、まだやりたいことがたくさんありました。でもきっともう、思い残したことはなかったのだと思います。74年間の生涯をめいっぱい生きて、生き切って、たくさんの想いを皆さんに継ぎ、人生の役割を全うしたのですから。ここからは、想いを継いだ、私たちの役割です。

秦靖枝が思い描いた「誰もが安心して暮らせるまちを」の夢を、今度は私たちの力で、実現に向け一歩、また一歩と進めていく。それが、残された私たちに託された役割であり、母が一番に願っていることでしょう。

「つながりの中で活動しなさい。大丈夫、みんなで力を合わせれば、できるから」

秦靖枝から私たちへの、最後のメッセージです。

必要としてくれる誰かのために、懸命に生きること。その中で私たちはずっと、つながっているのだと信じています。

三女 はたなつみ（おおぞら理事）



秦理事長 74歳のお誕生日を祝って
2016年10月



6月17日の偲ぶ会では、“奥野ウインドベルズ”の皆さんが演奏してくれました

いのちの循環

ひとり暮らしを目指してクローバー（サテライト型ホーム）で暮らす加藤利江子さんが、メッセージを寄せて下さいました。

秦先生への追悼のお手紙

秦先生は、いつも素敵な笑顔でした。いつも声をかけて下さいました。「あさぎ」でのお仕事で凄く辛かった時も、「お疲れ様、よくがんばりましたね」と言ってくれました。お話も親身になって聞いてくれたり、励ましてくれました。

凄くおもしろい病気になっちゃったとは聞いていました。でも何の病気だかまでは知りませんでした。お亡くなりになってから、世話人さんから「癌だった」と聞きました。秦先生にお別れをするまでは信じられませんでした。今でもずっと、ずっと側にいてくれて見守ってくれていると思います。

毎日のように凄く辛い事や悲しい事があるけれど、そんな時は秦先生の素敵な笑顔思い出します。すっごくすっごく笑顔も大好きでしたし、すっごく、すっごく温かくて大好きな先生でした。ずっとずっと側にいて下さい。秦先生のことは忘れません。

空席になった理事長のデスクを視界に入れないようにして過ごしていた5月の末、嬉しいニュースがありました。産休中のあさぎスタッフ荒さんが、なんと産後2ヶ月で職場復帰したい！と。

まずは事務所で短時間の仕事から再開しよう、と決まったものの、保育園には生後3ヶ月からしか入れない。どうしよう・・・と、悩む間もなく、さっそくAmazonでベビーベッドを購入し、事務所内に設置。入園できるまでの1か月間、オムツとミルクを背負っての3人連れ出勤で、仕事と育児を両立してもらうことになりました。

喜んだのは、私たちスタッフ。愛らしい赤ちゃんの寝顔を見ながら仕事をする幸せ。理事長不在の淋しさを、この新しい命にどれだけ慰められたことでしょう。

役割を終えて消える命があって、役割を持って生まれる命がある。私たちは、“いのちの循環”という営みの中に、限られた「今」を与えられている。そんなことを考えさせられる日々でした。

